

# 学習コミュニケーション力を育てる授業方法に関する研究

## —新規採用者研修における「国語科・師範授業」を中心にして—

教育実践高度化専攻

授業実践リーダーコース

M07289F

西野邦彦

### 1. 問題の所在と研究目的

#### (1) 自らの国語科授業実践における問題点

これまで行ってきた自らの授業研究を検討すると、授業の目標の設定や学習展開の検証が十分でないこと多かった。それは、国語科授業の実践では、児童の発言が活発であったのかということや、あるいは、児童が生き生きと活動していたのかということなど、授業の印象や感想にとどまることが多かったからである。授業の風景的理解、またはその形式に振り返りの中心があったといっても過言ではない。また、その多くが教師主導による画一的な一斉授業であったことも、また否めない事実である。

#### (2) 現任校における授業研究の問題点

現任校での授業実践を振り返ると、授業をどのように評価するのか（授業評価）、つまり、授業の構造や学習展開について、良い点や改善すべき点を評価する視点が明らかになっていないことがある。そのため、せっかく授業を行っても、実りが少ないというのが現状である。授業の展開、発問の工夫など授業の構造を研究の課題に位置づけて研究することが必要であるといえる。

#### (3) 神戸市国語科指導員として新任教師に調査した授業の問題点

新任教師は、着任して間もない4月、5月、6月は、特に指導内容を十分理解できないままに、授業を進めているというのが現状である。あらゆる教科で言語力を育成することが叫ばれている現在、新規採用者が国語科の指導法を身につけ、自信をもって授業に望むことができるようになることは急務である。新任教師における指導の問題点

は、国語科の指導法の基礎・基本を理解できていないことである。

### 2. 研究の目的と研究方法

本研究の目的は、「国語科においてペアトークを用いた授業実践などを行うことによって、児童の学習コミュニケーション力を高め、新規採用者に対する授業方法や授業における留意点を指導するための要点を明らかにすること」である。

また、新規採用者に必要な授業の基礎基本の要点について言及することである。

研究の方法は、第一に、ペアトークを取り入れた授業研究を行い、その効果や課題を検討する。第二に、取り組む重点事項を設定し、その手立てによる成果を同僚に聞いたり、児童へ質問紙による調査を行ったりする。

研究の実際としては、大学院入学前と大学院在学中の3年間の授業

平成18年度 5年 物語文「わらぐつの中の神様」

平成19年度 6年 物語文「海の命」

平成20年度 5年 詩「犬」

の実践を検討することで、国語科指導員としての新規採用者「師範授業」での要点を導き出す。3つの授業を評価規準、学習コミュニケーション、説明・説得、授業の基礎基本といった観点で振り返ることで、授業で必要な知見を得ることができた。

### 3. 研究の成果と課題

#### (1) 研究の成果

##### ①授業実践リーダーへの変容

大学院で学んでいく過程で、自らの意識や構えが、授業実践リーダーとしての責務やメンター教員としての役割を自覚するようになった。また、外的環境の変容も遂げた。これまでは、学級担任が自らの役割の大半を占めていた。しかし、今では、学年全体をまとめる学年世話係や、授業研究などの校内研修のリーダー、さらに神戸市国語科指導員としての責務が重くなり、自身を取り巻く環境面でも、授業実践リーダーとしての活躍の機会が増えてきている。

講義で学んだ理論や知識は、即、現任校で実際の授業で新しい試みとして生かすことができた。今までなんとなく思っていた経験上の知識や知恵、先輩教師から学んできた実践上のコツなどというものが、理論的に裏付けられることは、自分の授業実践に対する自信となった。

## ②評価規準を設けて授業目標を明確にした授業

評価規準は、児童がそうあってほしいという到達している状態を記述したものである。評価基準は、どの程度できていれば、満足できるのか、あるいはおおむね満足できるのかを示している。ABC基準を設けることにより、指導目標がどれくらい達成できたのかが教師自身に見えてきた。すなわち、評価の規準を明確にすることが、指導につながるという「指導と評価の一体化」の具体を学んだ。

## ③授業の基礎・基本を考えた授業

授業の基礎とは、教師の子どもへの接し方や学級の集団作り、学習のルール作りであり、どの教科でも共通するものであり、授業の基礎、土台である。授業の基本とは、その基礎の上で、指導目標に向かって、どのように学習内容を指導していくのか、授業の構造や展開、発問、指示などを組み立てるのかということである。

2つを区別して考えることができ、目標分析をきちんと行い、目標達成のために教師がどうい

う手立てをうつのかをしっかりと考えようになった。授業研究の事後検討会でも、授業の展開や発問、指示などについて話が焦点化され、どう指導すればよいのかを考えるようになった。

## ④学習コミュニケーション力を育てる授業

学習コミュニケーション力について質問紙を作り、調査をした。その結果、コミュニケーション力には、自己発信力、他者受容力、構えに分けることができるようになった。

学習コミュニケーションが高まり、児童が相互に意見を述べたり、考えを説明する活動が活発になると、児童同士が学び合う姿が見られるようになった。

## ⑤説明・説得力をのばし、思考を高める授業

(論理的な文章を書く活動を通して)

主張を確かなものにし、考えを整理するためには、説明する力を伸ばし、相手を説得する活動が大切であると考えた。授業実践から、文章化することによって考えを確かなものにして、説明する力を身につける。根拠を示しながら考えを述べる。論理的な表現を目指すことが重要であるなどのことが明らかになった。

## (2) 今後の課題

新規採用者への研修の方法や機会をどのようにするのかということが、筆者の今後の大きな課題である。授業実践リーダーコースで学んだ知見を、どのような方法で伝えるのか。伝える機会をどのように設定するのか。また、より多くの新任教員に伝えるための仕組みをどう作るのか。どのような方法が最適なのか。これについて、今後とも検討していきたい。

主任指導教員 佐藤 真

指導教員 米田 豊